

# 長野県北部震災被災地(栄村)における 文化財保全活動(第93回)報告

[2025年 8 月18日版]



4月29日に村のかあちゃんたちが振る舞ってくれた昼食

地域史料保全有志の会

===== 目 次 =====

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| はじめに                           | 2 |
| 1. 第93回活動の基本データ                | 2 |
| ■日 程                           |   |
| ■参加者                           |   |
| ■活動内容                          |   |
| 2. 文献班の活動                      | 3 |
| ■廣瀬博明家文書の整理と目録取り               |   |
| 3. 民具班の活動(文・写真：石野律子)           | 4 |
| 4. 夜の交流会を開催                    | 6 |
| 5. 今回の作業メシー炊き出し、山菜天ぷら、ワンコイン昼食！ | 7 |
| 6. 会計報告                        | 8 |

## はじめに

2025年度の春は、栄村での文化財保全活動に新しい風が吹いた。村の教育委員会が発案して県の助成金を確保してくれたのだが、その用途として学生・院生等のへの直接的な旅費・宿泊費の補助や村の皆さんとの交流費用を主体に申請してくれたのである。もちろんこうした補助は一時的なものであはあるが、助成の出る機会をきっかけとして栄村での活動を知ってもらうことで、継続的な参加につながっていってくれば、との願いをもっている。

そして必ずしも助成があるから、という理由での参加ではなかったが、今回は学生・院生が比較的多く参加してくれ、その皆さんに宿泊や交通費の補助を行うことができた。何より栄村での活動の「楽しさ」を味わってもらえたようで、次回以降も参加したいと意欲を見せてくれる方が多かったのを嬉しく思う。また、県の助成金の提案・手続きもそうだが、巡検の手配から昼食や懇親会への食材の差し入れ、果てはもてなし料理の調理まで、村教委の生涯学習系のスタッフが楽しみながら積極的に手を貸してくれたのに大変助けられた。初めての参加者も、この教委スタッフの熱心な対応に触発されて一気に保全の会メンバーとして仲間入りできたと思われる。スタッフの皆さんには心よりお礼を申し上げたい。



今回は民具班と文献班の活動であったが、どちらも順調に作業を進めることができた。以下、活動内容を紹介していきたい。

### 1. 第93回活動の基本データ

■日 程：2025年4月25日(金)～30日(水)の6日間

■参加者：白水智・石野律子・岡部恵海・原口潤也・水落建哉・杉浦亜門・高野宏峰・鈴木菜々恵・松村なのか・常田一彦・半戸帆南・半戸千晶・平井太郎・柴田彩子・山下詠子・岩崎智史・佐々木彩乃・原田和彦・藤田明良・松永勝之  
栄村から：安田深雪・広瀬幸利・鈴木剛・鈴木早苗・田中善丈・上倉和美  
【差し入れ・支援等】吉楽旅館・苗場荘・上倉和美・油科光子・松永勝之・越智勇氣・阿部佑哉

■活動内容：

〔4月25日(金)〕

〔文献班〕翌日からの古文書目録採りの準備。

※吉楽旅館泊

〔4月26日(土)〕

〔文献班〕廣瀬博明家文書の目録作成。

〔民具班〕午前：泉平の斎藤ヨシ子家寄贈民具の登録と撮影

午後；同上。和紙関連の古文書翻刻、油科光子家聞き取り

※昼は差し入れでいただいた熊肉・鹿肉のバーベキューなど。

※吉楽旅館泊

〔4月27日(日)〕

[文献班] 廣瀬博明文書の目録作成。

[民具班] 午前：津南町上郷の半戸家土蔵の民具見学

午後：木島平の内山手すき和紙体験館見学

※吉楽旅館泊

#### [ 4月28日(月) ]

[文献班] 朝から全員で秋山郷巡検(天池・切明・小赤沢など)。昼過ぎからこらっせにて廣瀬博明家文書の目録作成。

※吉楽旅館泊

#### [ 4月29日(月) ]

[文献班] 廣瀬博明文書の目録作成。

[民具班] 午前：白鳥出身の松永勝之さんから手漉き和紙の記憶を聞取り

午後：手漉き和紙関連道具などの登録、目録作り

※昼に上倉和美さんら村のかあちゃんたちがご馳走を振る舞ってくれる。

※吉楽旅館泊

#### [ 4月30日(火) ]

[文献班] 廣瀬博明家文書の目録作成ならびに今回採取した目録の整理と片付けを行い、撤収。

## 2. 文献班の活動

### ■ 廣瀬博明家文書の整理と目録取り

今回も古文書の内容を一点ずつ読み取り、確認しながら、目録整理を行った。進捗状況は次のとおりである。

#### ○ 土蔵前室史料の目録採り

カ-11-31～49-2止(終了)

カ-12-71～118(途中)

カ-12-177～186(途中)

カ-15-4～62(途中)

カ-17-17～38止(終了)

#### ○ 土蔵1階史料の目録採り

あ-エ-a-①～④-5止(終了)

※ただし③は紙吹雪状になった文書破片のため、  
目録採取は不可能

あ-エ-b-①～②-18止(終了)

あ-エ-c-①～②-17止(終了)

#### ○ 土蔵2階史料の目録採り

タ-A-①-1～3(途中)



タ-A-②-1-1～28-3止(途中)

※次回はタ-A-②-1-29から開始

タ-A-②-2-1～3-1-7-1(途中)

タ-A-②-2-3-1-10-6-2(途中)

※次回はタ-A-②-2-3-2から開始

○現状記録

土蔵2階タ-A



### 3. 民具班の活動(文・写真：石野律子)

今回の民具班は、昨年秋に寄贈された斎藤ヨシ子家民具の調査、手漉き和紙の聞き取り調査、飯山の手漉き和紙体験館見学などを行った。

【4月26日】 東部の体育館下の倉庫で保管している泉平の斎藤ヨシ子家民具の登録と撮影を行った。

斎藤ヨシ子家は2011年にレスキューしていた家で、すでに登録されていた民具もあり、今回はその続きで30番から登録作業を行った。金属製の罌類、磁器の食器類、注連縄などを登録した。なかでも注連縄は毎年新しいものを作り替えるので残りにくい民具の一つである。嫁入り道具の和ダンスと軍服が入った行李は、こらっせ2階民具収蔵室へ運び込んで、次回以後とした。

平滝の上倉和美さんのご案内で、同じく平滝の油科光子家へ和紙を取りに伺った。手漉き和紙内山紙とチリ紙、障子紙を寄贈して下さった。和紙は同じく平滝の手漉き和紙職人上倉磯雄さんから貰ったものだという。光子さんの知り合いに書道家がおられ、その書道家によると、磯雄さんが漉いた和紙は墨筆で書いても文字が滲まないのが、好んで磯雄さんの和紙ばかりを購入していたという。ほかの和紙と何が異なるのだろうか？今後の課題がひとつ見つかった。光子さんはご自宅のすぐ側の上倉幸太郎家で使っていた和紙包丁も2丁持っておられる。しかし地震の後、上倉幸太郎家は取り壊されてしまった。

光子さんは若い頃、農閑期に手漉き和紙のお手伝いをしていた。近所の女性たちと一緒に楮の皮むきなどの作業を手伝った。しかし食事が出るだけで報酬はなかった。「昔のことだから、田植えや稲刈りの時と同じように結(ユイ)の精神で、それが当たり前の時代であった。」と懐かしそうに話された。



木箱に入っていた湯呑み茶碗を広げる



注連縄は残りにくい民具のひとつ



木箱に入っていた湯呑み茶碗を広げる



注連縄は残りにくい民具のひとつ



和紙にまつわる話を下さった油科光子さん



和紙包丁

【4月27日】 午前は津南町上郷の半戸家土蔵見学。昨年から活動に参加してくれている中学生の半戸帆南さんの実家の土蔵民具を見せて頂いた。津南町上郷は新潟県、しかし県は違えども栄村とはほぼ同じ文化圏である。土蔵の中で見つけた和紙の束（多分1ヒロ）と、かなり古そうな未使用の内山紙障子紙4巻を寄贈してくださった。古そうとはいえ黄ばんでいる訳でもなく真っ白で状態は良好だった。これらは今民具班で調査している和紙の一資料として、また展示用備品として使うことができる。

午後は、飯山・栄村と津南で漉かれていた内山紙の発祥の地といわれている木島平内山手すき和紙体験館へ行き、手漉き和紙職人上埜暁子さんから道具の説明などを聞いた。地元で使われていたという年季の入った叩き棒を見せて下さった。叩き棒は栄村では見つかっていないので、大変貴重な道具である。上埜さんは機械に頼ることなく、手作業で紙の繊維をほぐす時には、このような棒ではなく木槌のような道具を大理石の台の上で叩いて使っているという。

今回木島平へ行ってみて一つ気づいたことがあった。それは木島平では、上埜さんが道具などを工夫改良しつつ上埜さん流に手漉き和紙の技術が継承されているが、手漉き和紙の古い道具については調査されないままとなっているようである。もしかしたら調査報告されていないのかもしれない。

ほかに津南町の半戸さんのお母様から和紙情報を頂いた。津南で漉いている大井平和紙についてである。今であれば小学校で紙漉きに関わり実際に指導していた学校の先生がおられるとのこと。大井平和紙というのは、和紙の再現を試みた頃に地元の人が新たに勝手に付けた名称である。元々は津南町大井平で紙漉きが行われていた時代は内山紙として販売していた歴史があるので、津南町と木島平村の手漉き和紙の文献や歴史を今後調べる必要があるかと思われた。



段ボール箱に入っていた内山紙と思われる和紙



障子紙の巻



木島平内山手すき和紙体験館



和紙の繊維をほぐす叩き棒が保存されていた



手漉き和紙の説明をする手漉き和紙職人上埜暁子さん



作業場の羽釜

【4月29日】 午前、白鳥出身で東京在住の松永勝之さんから手漉き和紙の記憶の聞き取りを行った。午後は今まで寄贈された手漉き和紙関連道具などの登録、目録作りを行った。

古文書班から戸隠講の袋が廣瀬博明家資料から見つかったと情報提供頂いた。和紙を袋状に糸で縫った袋で、中にはカワラケが2枚とかけらが入っていた。(資料番号 土蔵1階あ-エ-a-④-4)

#### 4. 夜の交流会を開催

今年度は、村内外からの保全活動参加者で交流の機会を持てるように、教育委員会が計らってくれている。今回は4月29日の夜に「こらっせ」においてこの交流会を開催した。当日は参加者が差し入

れたり教委のスタッフが用意してくれたお酒や食べ物、また昼のかあちゃんたちの炊き出しのおかずの残りで楽しい交流のひとつを過ごすことができた。

今回はとくに若い学生・院生の参加者が多く、また教委のスタッフやその友人などにも若いメンバーが多かったため、一気に打ち解けた雰囲気となり、わいわいがやがやと大いに盛り上がった。



## 5. 今回の作業メシー炊き出し、山菜天ぷら、ワンコイン昼食！

今回は村のかあちゃんたちの炊き出しや教育委員会スタッフや村民の方からの差し入れなどがたくさんあり、とても豊かな食事が多く提供された。もちろん差し入れ食材を使った自炊ワンコイン昼食も実施し、毎日が充実した食事となった。参加された皆さん毎日おなかいっぱいだったでしょう。



差し入れされた熊肉・鹿肉の焼肉をメインにした4月26日の昼食



教委スタッフの差し入れとセッティングで揚げたて山菜てんぷら昼食となった4月27日



4月28日の秋山郷巡検中には苗場荘で名物のキノコカレーと巡検中に摘んできた山菜の料理を出していただいた



4月29日は村の料理名人3人が腕を振るって料理を振る舞ってくれた



4月30日は差し入れの熊肉で作ったチャーシューでパスタを自炊

## 6. 会計報告(会計担当：大澤佳寿子)

[2025年4月1日～2025年7月31日までの支出]

|                   |          |
|-------------------|----------|
| ○保全活動参加呼びかけチラシ作成費 | 15,000円  |
| ○宿泊費補助(8名・23泊分)   | 136,000円 |
| ○交通費補助(4名分)       | 26,055円  |
| ○巡検時一斉昼食代         | 10,000円  |
| ○入浴券(3冊)          | 18,000円  |
| ○4月29日昼の交流会費      | 20,000円  |
| ○4月29日夜の交流会飲み物代   | 4,200円   |
| ○たこ糸・防虫剤          | 2,580円   |
| ○振込料              | 440円     |

計

232,275円

[2025年4月1日～2025年7月31日までの収入]

|          |        |
|----------|--------|
| ○寄付金（1名） | 5,000円 |
|----------|--------|

-----

|   |        |
|---|--------|
| 計 | 5,000円 |
|---|--------|

|       |            |
|-------|------------|
| [残 額] | 1,601,955円 |
|-------|------------|

※本報告書中、とくに執筆者の記載がない部分や撮影者注記のない写真は、白水が担当・提供した。